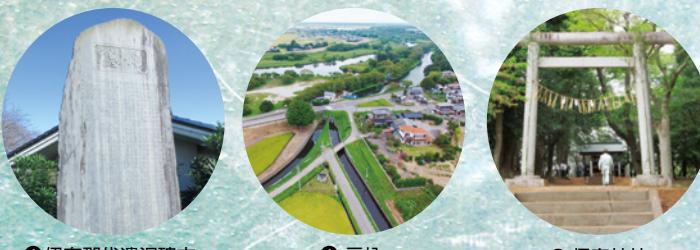


## 伊奈氏と「谷原三万石」関連年表

和暦（西暦）	ことがら
文禄元年（1592）	伊奈忠次の次男として半十郎忠治が生れる（長兄は忠政）
慶長3年（1598）	3月、下総・常陸国境争論（鉄火塚のおこり）
慶長8年（1603）	2月、江戸幕府開府
慶長11年（1606）	この頃、忠治は徳川家康に出仕
慶長13年（1608）	3月、忠次が豊田谷原などの人びとに開発手形発給
慶長15年（1610）	6月、忠次没
元和4年（1618）	3月、忠政没 忠治が家督相続し武藏国赤山7000石を領する 赤山源長寺創建
元和年間	鬼怒川と利根川が接続（寛永初頭開削説あり） 弥左衛門土手が設けられ鬼怒川と小貝川が分離（寛永初頭分離説あり）
寛永年間	間宮林蔵の先祖・隼人が上平柳に帰農
寛永2年（1625）	忠治、小張村に陣屋設置（のちに豊体村へ移設） 福岡村の善右衛門と角右衛門が主任となり山田沼堰の普請開始
寛永3年（1626）	忠治、台通用水・川通用水・中通悪水・落堰を開削
寛永4年（1627）	忠治、堰から用水路に水を流すための元払開設
寛永6年（1629）	忠治、赤山陣屋設置
寛永7年（1630）	谷原領検地 岡堰普請開始 寺畠村の弥左衛門ほか35名が供養塔を建てる
寛永8年（1631）	9月、忠治が常陸谷原の人びとに開発手形発給
寛永11年（1634）	谷原領検地 莖場領開発のため栗山村から弥左衛門新田に二千間堤設置
寛永19年（1642）	豊体村に淨圓寺創建（本山は伊奈家の菩提寺・鴻巣勝願寺）忠治が谷原領を後にする
承応2年（1653）	6月、日本橋の関東郡代屋敷で忠治没（法名「長光院殿東誉崇運周大居士」）
寛文3年（1663）	伊丹堰設置
享保7年（1722）	山田沼堰を廃し福岡堰設置
宝暦9年（1759）	淨圓寺に伊奈觀音堂が建つ
天明8年（1788）	山王新田の石祠・伊奈摂津大明神が建つ
寛政4年（1792）	2月、忠尊が関東郡代罷免 3月、忠尊が改易され伊奈氏は失脚
慶應3年（1867）	10月、大政奉還 12月、王政復古
明治24年（1890）	前年制定の水利組合条例に基づき福岡堰普通水利組合設置
明治39年（1906）	9月、伊奈觀音堂が大暴風で倒壊
明治40年（1907）	飯泉五郎作『関東三大堰ノ一 沿革誌』発行
大正4年（1915）	11月、忠治に贈從五位
大正12年（1923）	8月、伊奈郡代遺沢碑文設置
昭和11年（1936）	6月、淨圓寺が伊奈報恩祭の公開法要
昭和13年（1939）	3月、伊奈觀音堂で忠治の300年忌大法会
昭和16年（1941）	12月、伊奈神社創建
昭和26年（1951）	土地改良法に基づき福岡堰土地改良区設置
昭和29年（1954）	伊奈村成立
昭和36年（1961）	伊奈觀音堂再建

現代にいたるまで小貝川・鬼怒川はたびたび氾濫

## 伊奈氏の足跡探訪



編集・発行 つくばみらい市教育委員会

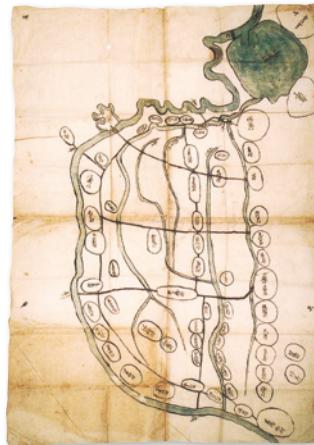
茨城県つくばみらい市福田 195

☎ 0297 (58) 2111 (代表)

令和6年12月21日発行

# 伊奈氏と「谷原三万石」





▲山田沼堰と谷原領の村々  
享保年間 川口家文書

▶小貝川流域の村々  
江戸後期 川口家文書



## 谷原三万石をひらく

くばみらい市域は古くから「谷原」と呼ばれてきた地域です。江戸初期までの谷原は、葦の生い茂る沼沢地でした。

忠治は谷原の住民に命じ、川の水をせき止める堰を設け、用水路を開削しました。灌漑施設が整備されたことによって、沼沢地は豊かな穀倉地帯へと変貌することになります。



▲伊奈忠治から福田新田の三七郎に与えられた開発手形  
寛永 8年9月 吉葉家文書



▲元堺の上空から見た谷原三万石の美田  
左が台通用水路、右が川通用水路



▶伊奈忠治(伊半十)の署名と黒印(部分)  
寛永 14年 11月 7日 結城家文書

## 江戸幕府の代官 伊奈半十郎忠治

戸幕府に仕えた伊奈氏は、関東一円で治水工事や新田開発などを推進し、東海地方でも民政に尽くした一族として知られています。伊奈氏は荒川西遷や利根川東遷などの事業を通じて、土地の生産力を高めるとともに水運を盛んにし、江戸幕府の地方支配を統括する役割を果たしました。

くばみらい市域の開発を手がけたのは伊奈半十郎忠治です。茨城県内有数の穀倉地帯「谷原三万石」の基盤は、忠治による開発の

## 「伊奈氏ゆかりの地」協定

令和3年、伊奈氏の功績を記念し、「つくばみらい市、伊奈町、川口市「伊奈氏ゆかりの地」歴史・文化的交流に関する協定」が結ばれました。同年はコロナ禍のために協定締結式はオンラインで実施されましたが、翌年の埼玉県伊奈町における締結記念イベントでは3市町長が会しての記念撮影が行われました。



▲令和4年の締結記念イベント

おかげで整備されたことで知られています。忠治はまず鬼怒川を利根川につなげたのち、鬼怒川と小貝川を分離する難工事を成功させました。鬼怒川と分離したおかげで小貝川は水量が軽減し、「谷原」一帯の開発が進むことになります。谷原は伊奈氏の開発によって、土地の生産力が向上しただけでなく、各地から新住民の移住を受け入れたと考えられ、一大転換期を迎えたのでした。

## 伊奈氏をたたえる

世から現代まで、伊奈氏の開発の恩恵を受け、良質な米が生産されてきました。この恵みに感謝すべく、天明8年に山王新田で伊奈忠尊を祠つた石祠・伊奈撰津大明神が建てられ、昭和16年に伊奈氏を神として仰ぐ「伊奈神社」が創建されました。



▶石祠・伊奈撰津大明神  
天明 8年 山王新田日枝神社境内



▲伊奈神社の鎮座祭  
昭和 16年 12月 21日 福岡堰土地改良区所蔵